

31-1113

医薬分業活動への期待—医師による評価—

○定本 清美¹, 石川 稚佳子¹, 佐野 君芳^{1,2}, 武藤 里志¹, 佐藤 光利¹, 大林 雅彦¹, 安生 紗枝子¹ (¹東邦大薬, ²東邦大佐倉病院薬)

【目的】医薬分業が50%を越え地域医療の形態として定着しつつある。今後の薬剤師に何が望まれているかの検討が、分業推進の鍵となる。今回、分業のパートナーである地域医師の医薬分業に対する考えを明らかにする目的で調査した。

【方法】地域の実地医家100人に医薬分業に関連する10の大項目よりなる質問用紙を配布し、結果を集計した。

【結果】1. 医師の男女比は男性97%、女性3%、年齢は30代から70代であった。2. 100%分業している医師が50%、何らかの割合で分業している医師が75%であり、高い分業率であった。3. 医薬分業については67%が賛成、8%が反対、他は25%であった。4. 分業の良い点については、薬の管理が不用67%、処方薬が自由に選べる58%、診療や看護に専念できる50%などが上位で、効率性改善の評価が高かった。5. 改善すべき点は患者の待ち時間が増えた33%、患者が院外を希望しない17%など、患者サービスに関連することが上位であった。6. 分業の方法については、現状のままでよい50%、改善すべき33%、無回答17%であった。7. 患者にとって、分業がよいかについては、良い50%、悪い17%、特に考えていない17%であった。8. 薬剤師への希望は、薬の専門家として意見を積極的にのべてほしい75%で最も多く、専門知識の提供を多くの医師が希望していた。自由意見では、医師研修会への参加希望もあった。9. 薬剤師とのコミュニケーション手段については、電話67%、実際に話す33%などが多く、積極的なコミュニケーションを希望していた。

【結語】地域医師は、医薬分業を効率性、経済性などの点で評価し、薬剤師の専門知識提供へ大きな期待を寄せていることが明らかになった。